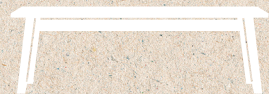


2022 - 2023

会社案内



無印良品について



1980年当初の40品目

無印良品の誕生は1980年。起点はものの生産プロセスを徹底して合理化することで簡潔で気持ちのいい低価格商品を生み出すことでした。「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」を通して見つめ直した実質本位の商品をつくり続けています。1983年に東京・青山に無印良品の単独店を出店、ものづくりから店舗環境、スタッフの接客まで、一貫した思想のもとで推し進め、気持ち良くお買い物をしていただける空間を目指してきました。

現在※、無印良品は、世界32の国・地域に1,000店舗以上を展開し、商品アイテムも、衣服や生活雑貨、食品、そして家まで揃えました。しかしその思想の根幹は誕生当時と変わらず、北をさす方位磁石のように、生活の「基本」と「普遍」を指し続けています。

※2022年8月末現在

会社概要

会社名	株式会社良品計画	資本金	67億6,625万円
所在地	〒170-8424 東京都豊島区東池袋四丁目26番3号	決算日	8月末日
ホームページ	https://ryohin-keikaku.jp/	年商	4,961億71百万円(2022年8月期) (良品計画グループ連携営業収益)
設立	1989年6月(登記上1979年5月)	従業員数	19,009名(2022年8月期) (臨時従業員等9,834名を含む／良品計画グループ)
代表取締役会長(兼)執行役員	金井 政明		
代表取締役社長(兼)執行役員	堂前 宣夫		

「第二創業」100年後のより良い未来の実現に向けて

代表取締役社長 堂前宣夫

株式会社良品計画は、2021年9月、「第二創業」を掲げ、企業理念を再定義しました。当社は「人と自然とモノの望ましい関係と心豊かな人間社会」を考えた、商品、サービス、店舗、活動を通じて、「感じ良い暮らしと社会」の実現に貢献することを企業理念とし、100年後のより良い未来の実現を目指してまいります。



企業理念を実現するために、2つの使命を掲げました。第一の使命は、「日常生活の基本商品群を誠実な品質と倫理的な視点から開発し、使うことで社会を良くする商品を、手取りやすい価格で提供する。」これは、日常生活に不可欠な商品・サービスにおいて、過剰品質でもなく不足していることもなく、本質を担保し、余分を削ぎ落としたちょうど良い商品やサービスを、お客さまに提供することを目指すものです。第二の使命は「店舗は各地域のコミュニティセンターとしての役割を持ち、地域の皆さまと課題や価値観を共有し、共に地域課題に取り組み、地域への良いインパクトを実現する。」商品を販売している店舗が、単なる売場としてだけでなく、地域で生活者が集まる場となり、人と人をつなげコミュニティを形成する触媒となることや、スタッフが地域を良くする活動に自発的に貢献する人々の集団となる、ということを目指しています。

当社には「社会や人の役に立つ」という、根本方針があります。社員および事業関係者一人ひとりが、社会全体や地球で今起きている課題に敏感に呼应し、提供するすべての商品・サービス、企業活動において、地球環境負荷低減や個人尊重に努めることが、すべての企業活動の根幹であると考えています。また、このたび、社員一人ひとり、事業関係者一人ひとりが、各地域が抱える個々の課題の解決や、地域それぞれの活性化に貢献していくよう、「公益人本主義経営」を掲げました。

企業活動を進めることで、高い収益構造をつくり、ステークホルダーの皆さまとともに、社会への良いインパクトを共創することを目指し、長期的な企業価値向上に努めてまいります。



もっと知りたい

<https://ryohin-keikaku.jp/corporate/overview.html>

商品開発について

3つのわけ

無印良品のものづくりの基本となる考え方は変わっていません。時代が変わっても、変わらない3つの視点、①**素材の選択**、②**工程の点検**、③**包装の簡略化**、を守りながら“商品の原点を見直す”という姿勢で実質本位の商品をつくり続けています。

無印良品が目指すのは、「これがいい」ではなく「これでいい」という理性的な満足感をお客さまに持っていただくこと。つまり品質も価格も十分「これでいい」という意味です。ただ、そこに若干含まれているかもしれない不満や妥協を解消して、自信に満ちた「これでいい」を実現していきます。

素材の選択

おいしくて健康にも役立つ食品。着心地よく、体になじむ衣服。使い勝手を第一に考えた生活雑貨。ふだん見過ごしがちな基本のものづくりのために素材を見直します。品質は変わらないのに、見栄えのために捨てられているもの。業務用の素材。世界中から見つけた原材料や、安価で大量に確保できる旬のものなどを活かして、低価格で質の良い商品が生まれました。

工程の点検

ひとつの商品ができるまでのプロセスを徹底的に点検する。選り分けたり、大きさを揃える手間も不必要。不揃いのままだったり、つや出しせずに仕上げたり、商品本来の質に関係のないムダな作業を省いて必要な工程だけを活かししました。規格外のサイズ、かたちで捨てられていたものも商品に。素材をムダなく活かし、コストダウンにもなる、実質本位のものづくりです。

包装の簡略化

飾らず、もの本来の色やかたちのままを大切にしたい。過剰な包装をしない。まとめて一括包装に。共通容器に入れる。シンプルなものづくりであると同時に、地球の資源をムダにせず、ごみを減らすこともできるのです。無印良品の商品はすべて、成り立ちのわけが印刷されているパッケージであっさり包まれていたり、タグがつけられているだけで、店頭に並んでいます。



もっと知りたい



<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/principles/>

無印良品を代表する“生活の基本となる日用品”

無印良品は、日常生活に役立つ、くらしの基本となる品々を取り揃えています。毎日使うものだからこそ適正な品質と価格でより多くのお客さまに提供することを目指しています。

衣料品

洗いざらしブロードシャツ

(1983年ー)

綿本来の風合いを生かすために、洗いざらしで仕上げました。洗ったまま自然なしわを生かしても、きちんとアイロンをかけても着られる定番のシャツです。



デニムパンツ

(1987年ー)

時代に合わせて見直しを行いながら定番となったデニム。2022年秋冬より、ユーズド加工やブリーチ加工を施さないことで水や化学薬品の使用量を減らし、環境負荷の軽減にも取り組んでいます。



足なり直角靴下

(2006年ー)

かかとの形に合わせて直角に編み立てた、足にフィットしてずれにくい靴下です。無印良品のすべての靴下は直角になっています。



疲れにくいスニーカー

(2013年ー)

スムーズな歩行を誘導する、歩きやすく疲れにくいインソールを内装しています。撥水加工を施した生地で作りました。



生活雑貨

パイル織りタオル

(1983年ー)

やさしい肌触りで吸水性の良い、毎日使うのにちょうど良いタオルです。用途やお好みに応じて3種類の厚みを取り揃えています。



脚付マットレス

(1991年ー)

ベッドとしてだけでなく、ソファのようにくつろげるため、部屋を広く使えます。デビュー以来、土台をスチール製に変えて強度を上げたり、側生地を洗える素材に変更するなど、改良を重ねてきました。



化粧水 敏感肌用

(1999年ー)

数十年かけてゆっくりとろ過された、岩手県釜石市の天然水を使用したスキンケアシリーズです。乾燥が気になる敏感肌に潤いをたっぷり与えて保護します。



掃除用品システム

(2001年ー)

掃除する場所に合わせて、ポールとほうきやフローリングモップなどのヘッドの組み合わせを替えて使う掃除用品のシリーズです。



食品

バナナバウム

(2000年ー)

2017年の仕様見直しで、焼きムラや凸凹、変形など、おいしさに関係なくはじかれていたものも生かし、「不揃いバウム」としてリニューアルしました。



ホワイトチョコがけいちご

(2001年ー)

いちごをまるごとフリーズドライにし、ホワイトチョコレートをかけました。粒の大きさが不揃いなものや、いちごの果肉が見えているものも使っています。



素材を生かしたカレー バターチキン (2009年ー)

3種のトマトと鶏肉のkokoroを生かし、ギーでまろやかに仕上げました。現地の味と文化に学び、これまでに4回の見直しを重ねながらおいしさを追求しています。



もっと知りたい



<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/history/>

■ 新商品・サービス この一年

再生素材を使用した衣料品の拡大

(2022年8月より順次発売)

「資源を無駄にしない」という考えのもと、「再生コットン」、「再生ウール」、「再生ナイロン」、「再生ポリエステル」を使用した衣料品のアイテム数を拡大しています。生産工程で出た端切れや回収された製品を糸に再生し、生地化、製品化を行い、地球資源の循環化および環境負荷低減、廃棄物削減を目指してできることから取り組みを進めています。



商品例：再生ナイロン軽量ノーカラーダウンベスト

「クリアケアシリーズ」のリニューアルとスキンケア用品の詰替リフィルを発売

(2022年7月・9月発売)

キメの乱れや毛穴が気になる肌を整える「クリアケアシリーズ」をリニューアルしました。全アイテムをアルコールフリーとし、「拭き取りローション」は薬用となりました。

また、化粧水や乳液などの詰替商品の販売を開始しました。詰替パウチは、ボトルと比べて包材のプラスチック量が約1/4となり、プラスチック使用量の削減にもつながります。今後、すべてのスキンケア用品で詰替用を販売していく予定です。



レトルト調味料「かんたん調理」シリーズ

(2022年10月発売)

「かんたん調理」シリーズは、身近な食材で食卓のメインになるおかずやおつまみを手軽に少量から作ることができる新しいシリーズです。「四川麻婆豆腐」や「タンドリーチキン」、「タッカルビ」などご家庭では味付けが難しい本格的な料理を、野菜や肉などと炒めて簡単に作ることができます。



自然素材でつくる服(カボックの服)

(2022年3月発売)

アジアの熱帯地方で自生する樹木の実から取れる天然繊維、カボック。病害虫に強いので、農薬は要らず、環境負荷の少ない植物です。軽量で優れた弾力性があるという特長と素材が持つ風合いを生かし、おらかなシルエットで着心地の良い服を作りました。トップスの丈とボトムスの太さの組み合わせでさまざまなコーディネートが楽しめます。男女兼用で、組み合わせも自由です。無印良品のネットストアおよび一部店舗にて販売を開始しました。



商品例：木の実から作ったカボック選スタンドカラーシャツジャケット

「ネット注文店舗受け取りサービス」対象アイテム拡大

(2022年10月より)

2011年から開始したネットストアで注文した商品を店舗で受け取れる「ネット注文店舗受け取りサービス」の対象商品を拡大し、食品・超重量商品*以外のすべての商品となりました。

*重さ60kg以上の安全に運ぶことが難しい商品



全国のローソン店舗での展開開始

(2022年5月より)

生活の基本となる商品やサービスを手に取りやすい価格で全国津々浦々までお届けすることを目指し、全国のローソン店舗への「無印良品」商品の本格導入を開始しました。



もっと知りたい



<https://ryohin-keikaku.jp/topics/products/>

店舗について

無印良品は、衣・食・住の生活の基本領域において、品質と意味を磨き続けた商品を適正価格で提供すること、また、それぞれの店舗がその地域の活性化に取り組む個店経営を推進することで、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指しています。その店舗数は、日本を含む32の国・地域で1,000店舗以上となっています。これからも、各国・地域の皆さまの「役に立つ」存在となるために、商いを通じて「人と社会」に貢献することを目指していきます。

■ 日本国内店舗数

無印良品店舗	493	Café&Meal MUJI 店舗	29	IDÉE 店舗	10
--------	------------	-------------------	-----------	---------	-----------

■ 海外国・地域別 MUJI 店舗数

579

中国大陸	325	スウェーデン	1	オーストラリア	5
香港	19	スイス	1	フィリピン	5
台湾	58	フィンランド	1	ベトナム	3
韓国	40	デンマーク	1	クウェート	3
イギリス	7	ポーランド	1	UAE	7
フランス	7	アメリカ合衆国	10	サウジアラビア	5
イタリア	6	カナダ	9	バーレーン	2
ドイツ	7	シンガポール	10	カタール	2
スペイン	4	マレーシア	9	オマーン	1
ポルトガル	1	タイ	25		
アイルランド	1	インド	3		

■ 海外 Café&Meal MUJI 店舗数

25

(2022年8月末時点)



無印良品 広島アルパーク

2022年4月22日オープン／売場面積：約6,192㎡

「無印良品 広島アルパーク」は、世界最大の売り場面積と日本国内最大級の品揃えを持つ「生活全部店」です。無印良品の基本となるすべての商品とサービスを提供するとともに、レモンなどの地元産青果、牡蠣など名産品の加工食品販売や、地域の方に出店いただき一緒にマルシェ販売やイベントを行う「つながる市」、気軽に健康相談ができる「まちの保健室」など、「地域の皆さまとすこやかな暮らしをつくる」をコンセプトとした商品・サービス・イベントを用意しています。加えて、フードロスや環境負荷を考慮し、穀類や茶葉・コーヒー豆、洗剤やシャンプーなどの量り売りも実施しています。



無印良品 イーアス春日井

2021年10月22日オープン／売場面積：約5,464㎡

「無印良品 イーアス春日井」は、日本国内最大級の売場面積を持つ大型店です。日々の生活を充実したものにする日用品・食品・収納用品の販売はもちろん、①インテリアアドバイザーが常駐する「体感型の収納売場」、②屋台が並ぶ日用品売場「朝市大通り」、③地域住民・地元の商店・行政が集う「中央広場」といった、地域に密着した大型店ならではの3つの特長があります。地域の皆さまが交流する場の提供や、春日井市と連携した地域振興の取り組みなどを通して、地域の方々の暮らしに役立つ“コミュニティセンター”となることを目指します。



MUJI 新宿

2021年9月10日オープン／売場面積：約1,234㎡

新宿地区の中心部で、徒歩3分の距離に近接する2店舗「MUJI 新宿」「無印良品 新宿」をリニューアルオープンしました。「MUJI 新宿」は、環境や社会の課題に目を向けた商品・サービスと、アート・デザインをテーマとした雑貨、家具に特化した旗艦店として生まれ変わりました。一方、「無印良品 新宿」は化粧品や掃除用品、冷凍食品など、くらしの基本となる日用品を拡充しました。未来に目を向けるきっかけづくりから普段の暮らしを支える買い物まで、お客さまの暮らしの役に立つ場所となることを目指します。

無印良品 新宿

2021年9月10日オープン／売場面積：約993㎡



MUJIcom 東池袋

2022年1月15日オープン／売場面積：約401㎡

無印良品で初の中食サービス「MUJI Kitchen」を展開する地域密着型の小型店「MUJIcom 東池袋」が良品計画本社の1階にオープンしました。食品の品揃えを充実させるとともに、日用消耗品や掃除用品などの生活必需品を取り揃え、「必要なものが徒歩圏内ですぐ買える、近所にある地域密着型小型店」をコンセプトとして、“地域とつながる”取り組みも展開します。また、池袋エリアにある地域に根付いた地元のお店の商品の紹介と販売を通じて、東池袋で働く方々、近隣住民の方々にとって便利で身近な店舗を目指します。



無印良品 上海瑞虹天地太陽宮

2021年11月11日オープン／売場面積：約1,059㎡

2021年11月、中国大陸初となるスーパーマーケット併設店舗「無印良品 上海瑞虹天地太陽宮」がオープンしました。冷凍食品、ラーメン、オートミールなどの新商品をはじめ、日々の暮らしに必要な無印良品の日用品と食品を強化しています。また、中国の電子商取引大手である京東グループの「七鮮スーパー」と連携し、「ミールソリューション提案型スーパーマーケット」をテーマに、野菜や肉、魚、惣菜、ベーカリー、グロスアリーなど、食に関する商材全般を取り扱っています。



無印良品 美麗華百樂園

2022年1月26日オープン／売場面積：約2,228㎡

2022年1月、台湾最大の無印良品として「無印良品 美麗華百樂園」をリニューアルオープンしました。日常生活に必要な商品を取り揃え、Open MUJI や MUJI BOOKS、刺繍工房などのサービスに加え、産地直送の新鮮な野菜や果物を提供する台湾最大の「良品市場」や、台湾の無印良品店舗で初めての無料給水サービス、ガラスづくりのDIY体験やガラス製品の販売、リサイクル活動も行う「ガラス工房」など、この店ならではの限定コンテンツも充実しています。

もっと知りたい



<https://ryohin-keikaku.jp/topics/stores/>

感じ良いくらしの実現

当社が展開する無印良品は、単なる製品の集まりではありません。くらしの些細な断片から地球規模の未来までを見通し、考え抜く気配りの集合体でありたいと思います。社会で今、起きているさまざまな課題に敏感に呼応し、「良心とクリエイティブ」からそれらをより良い方向に解決していくプラットフォームでありたいと願っています。この想いのもと、さまざまな活動に着手しています。



もっと知りたい



<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/activities/>

「商い」を通じて社会に貢献する

当社は、ESG 経営のトップランナーを目指しています。各自治体や地元住民が主役となって、それに無印良品が巻き込まれるかたちで地域を活性化していくさまざまな取り組みや、地球資源の循環化および廃棄物削減の取り組みを進めています。



地域の課題解決や まちづくりに貢献する取り組み

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指して、無印良品の店舗を軸に、地域課題の解決やまちづくりへの貢献を図る活動を地域の方々と共に進めています。

その一環として、自治体と連携する取り組みを拡大しています。2022年には埼玉県宮代町(2月)、千葉市・独立行政法人都市再生機構(UR 都市機構)・株式会社良品計画・株式会社 MUJI HOUSE の4者による協定(5月)、北海道函館市(9月)、新潟県津南町(9月)、東京都板橋区(9月)と、自治体・団体との5つの連携協定を締結しています。今後も自治体や地元企業、地元住民の方々と連携して地域振興につなげるとともに、地域の暮らしの役に立つことを目指していきます。

「いつものもしも」 防災プロジェクトの取り組み

無印良品は、2011年から使い慣れた日用品などを利用して日ごろから災害に備えるための啓発活動「いつものもしも」を実施しています。そのひとつである「いつものもしも CARAVAN」は、「地域とつながる・楽しく学べる」をコンセプトに、子供から大人まで楽しく防災を学ぶことができるイベントです。地域の住民の方々も、企業も、行政も、垣根なくつながることで地域全体の防災力が向上することを目指し、2022年には、東京都豊島区(5月)、岐阜県各務原市(6月)、広島県広島市(6月・7月・8月)、群馬県前橋市(10月)、新潟県上越市(10月)の5カ所で開催しました。

また、避難所で簡単に組み立てられる「ダンボールでできたベッド」を2022年9月に法人向けに発売しました。商品パッケージのダンボール箱もベッド下の収納箱として活用できるなど、防災に役立ち、ゴミも出さない仕様になっています。

プラスチックごみの削減および 資源の循環化への取り組み

無印良品は、1980年のブランド創生以来、「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」の3つの視点でものづくりを続けてきました。

プラスチック製パッケージを用いるすべての商品で、可能な限りパッケージをなくす、再生紙などの代替素材に変更する取り組みを行いました。一般的にはプラスチック製を用いる衣料品のタグを留めるピンを、2021年秋冬商品から FSC 紙(再生紙を含む)を使用した紙製タグピンに順次変更しています。加えて、シャンプーやボディソープなど消耗度の高い日用品については、紙パッケージの大容量リフィル(詰め替え用)を新たに発売しました。

もっと知りたい



さまざまなかたちの無印良品



MUJI to GO 無印良品をぎゅっと凝縮。

MUJI to GO は無印良品の全商品から、旅・移動・ビジネス・学習・遊びに役立つアイテムをぎゅっと凝縮した厳選ショップです。便利な機能付きの文具や旅行が楽しくなるグッズ、普段の暮らしをそのまま持ち運べるものなど、空港で出会うとうれしいアイテムが揃っています。

<https://www.muji.com/jp/mujitogo/>



Found MUJI 世界中から、良いものを。

ものをつくるというよりは、「探す、見つけ出す」という姿勢でくらしを見つめ、世界中で永く使われてきた日用品を揃えています。もののエッセンスを残しつつ、現代の生活や文化、習慣に合わせて少しだけ改良し、適正な価格で再生していく活動を、これからも皆さまと一緒にしていきます。

<https://www.muji.net/foundmuji/>



MUJIcom 無印良品との新しい付き合い方。

毎日のように使うものはいつも通る場所でさっと買う。衣・生・食の全商品の中から日常生活に必要な商品を選定しました。自宅や職場、学校での必需品から、誰かへ贈るギフトまで、日々の暮らしをサポートする無印良品です。



EC 事業

無印良品は、暮らしの基本となる品々を無駄な包装や工程を省くことで、お求めやすい価格にて提供しています。自社 EC サイト「無印良品ネットストア」の運営に加え、「Amazon」や「楽天市場」などの通販サイトへ出品、出店することによって、本当に必要なものを適切な品質と価格でより多くのお客さまに提供し、さらなる利便性の向上を目指します。

<https://www.muji.com/jp/ja/store>



カフェ・ミール事業

無印良品のカフェを展開しているカフェ・ミール事業では、「素の食」をテーマとし、野菜のメニューを中心に、季節の素材やこだわりの食材をたっぷりと使った、体にやさしく食べておいしい料理、デザート、ドリンクを提供しています。

<https://cafemeal.muji.com/jp/>



イデー事業

家具・インテリア等のホームファースニングの企画・製造・販売を展開するイデー事業ではオリジナル家具および雑貨、アンティーク、カーテン、ラグといった商品を展開し、物販店舗以外では空間に関わるプロデュース、コンサルティング、デザイン業務を行っています。

<http://www.ideo.co.jp/>



キャンプ事業

「過剰なサービスは省きましたが、自然は豊かです。」をスローガンに、津南キャンプ場(新潟県・津南町)、南乗鞍キャンプ場(岐阜県・高山市)、カンパーニャ姫恋キャンプ場(群馬県・姫恋村)の3つの拠点でキャンプ場を運営し、合計で約70万坪の森林を管理しています。また、3つのキャンプ場では、地域の方に講師として参加していただくアウトドア教室の開催を通して、自然への理解を深めていただく活動を行っています。

<https://www.muji.net/camp/>



株式会社 MUJI HOUSE

株式会社 MUJI HOUSE は、「家」という器を通して無印良品の考える「くらし」の提案を行っています。「無印良品の家」には、無印良品が手掛ける日用品のように、使い心地が良く、無駄を省いた理にかなったかたちや機能を持ち、耐久性があって、愛着を持って永く使える、無印良品らしい考え方が貫かれています。

<https://www.muji.net/ie/>



株式会社良品計画

〒170-8424 東京都豊島区東池袋4-26-3

<https://ryohin-keikaku.jp/>

Ryohin Keikaku Co., Ltd.

4-26-3 Higashi-ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo, 170-8424, Japan

<https://ryohin-keikaku.jp/eng/>

